先生の選んだ
１枚

『Mozart Piano Works』
Francesco Piemontesi
Naïve / V 5367
CD||31623||1

・ショーワームの散歩道・

おすすめ資料

⓪4

音楽は演奏する人自身も演奏を聴く人のひとりである

フランチェスコ・ピエモンテージは、同じ門下として共に勉強した友人であると同時に、留学前から憧れのピアニストであり、目標とするピアニストのひとりでした。僕がドイツ生活を始めたときには、彼は既にヨーロッパ中で活躍していてレッスンにはあまり来なかったのですが、レッスンを受けに来ると聞けば必ず聴講に行き、コンチェルトをレッスンに持ってきているときはよく伴奏して勉強させてもらったものです。

初めて演奏を聴いたときは音色の美しさに衝撃を受け、それからしばらくは自分が練習で出す音にうんざりする日々を過ごしたほどでした。しかし何よりも、ピアノで人に語りかけるということにおいて、フランチェスコは間違いなく世界のトップのひとりと言えるでしょう。それはまるで、演奏者と聴き手の距離感が、絵本をやさしく読み聞かせる母親と、話を聞き入ってまるで自分が物語の中にいるような錯覚を覚える子どものようになるのです。

今までレッスンやコンサートなどで様々な作品の演奏を聴いてきましたが、今回おすすめするのはモーツァルトのピアノ・ソナタと小品の演奏です。

ここには、アーティキュレーションのアイディアや、リピートの際に即興で加える装飾、自然に呼吸をするような間の取り方などが、実に多彩に表現されています。また、メロディーの歌い方はモーツァルトのオペラを連想させるような豊かな表情に溢れ、どの一音をとってもそこにはキャラクターが宿っているのです。そして、この即興性やトリルの中の一音さえも魅力あるものにする演奏は、僕自身が装飾音に対する苦手意識から抜け出し、曲の魅力を更に引き出すための「装飾」であるという意識をもって演奏出来るようになるきっかけとなりました。

必死で練習していると、「自分が弾く」あるいは「弾けるようになる」ことばかり考えてしまいがちですが、音楽は「演奏する人自身も演奏を聴く人のひとりである」という原点、共有している空間と時間の中の対話であることを思い出させてくれるモーツァルトです。是非聴いてみて下さい。

Recommended CD

尾崎有飛 先生